



学習院大学大学院

人文科学研究科 **身体表象** 文化学専攻

学生募集案内

**舞** **映**  
**台** **像**  
**術** **術**  
 Theater Arts Film Arts  
**マンガ・アニメーション** **身体表象**  
**文化論** (ジェンダー研究)  
 Manga & Animation Corporeal & Visual Representation (Gender Studies)  
**身体表象文化史**  
 History of Corporeal & Visual Representation

を統合する新しいアプローチ

南一号館

# 専攻紹介

## Course Introduction

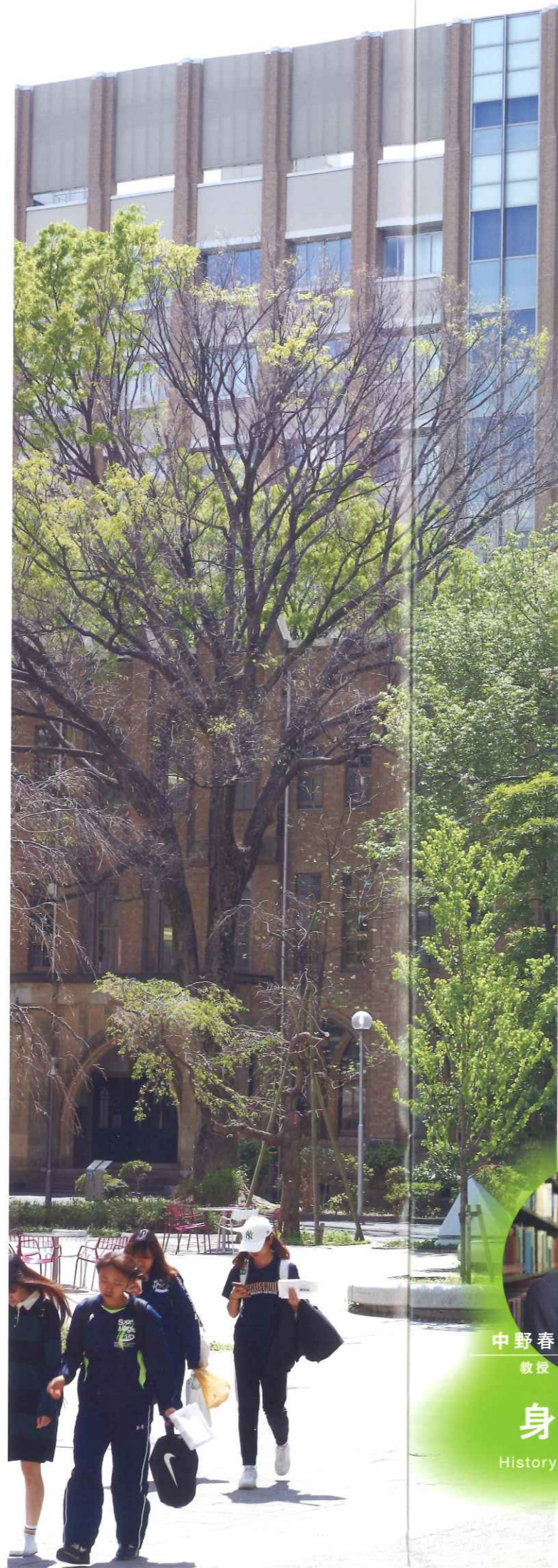
学習院大学大学院には、すでにさまざまな古典的枠組みの専攻課程があります。しかし、20世紀後半から、そうした個別化した専攻では十分に扱いきれない学問の領域が明らかになってきました。それを私たちは「身体表象文化」と名づけ、その領域を横断的に研究する専攻課程を創始しました。

19世紀的な学問の中心にあるのはテキスト（文献、言葉）です。しかし、現代文化は表象（イメージ）抜きでは論じることができません。20世紀に発展した映画、アニメーション、マンガなどの芸術は、現代文化のなかに巨大な位置を占めていながら、これらを互いに関連づけ、先行する演劇など表象芸術の新たな展開として研究する場所がほとんどありませんでした。私たちの「身体表象文化学専攻」はその空白を埋める学問の場所です。

生身の役者が世界を表象する演劇、スターの身体が魅力的に映しだされる映画、「キャラクター」が時空を超えて活躍するマンガ・アニメーション。これらはすべて身体とイメージを重要な出発点とし、現代のメディア環境や産業にまで大きな影響を及ぼしています。そこではいったい何が起きているのか？「身体表象文化学専攻」は、この実感としては分かっているが、学問的には依然未知の領域の探究に乗りだそうとするものです。

そして、言葉と理性の絶対化からは見えてこないイメージや身体の文化的可能性について、研究の基盤を提供することも本専攻の目的のひとつです。そのために、身体表象文化の歴史や理論も深く学んでいきます。この遠大な目的のために、本専攻はさまざまな分野で活躍する一流の研究者を揃えました。学生の皆さんもその関係のなかに飛びこんで、現代文化の最先端とその本質を自分自身の身体と頭脳ととらえてほしいと思います。

身体表象文化学は舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーションを対象とし、イメージ媒体として身体が作り上げてきた文化的意味を問い直す新しい学問領域です。舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーションという領域を言語、地域、専攻領域を超えて、身体と関わる文化学として有機的に組み合わせ、より幅広く、より深い奥行きをもって学べることが本専攻の特色です。したがって演劇、映画、マンガ・アニメーションに関心のある方で、これらの対象を身体と関わる文化背景から研究してみたいという方には最適の専攻です。



## カリキュラム—何をどう学べるのか

### Curriculum—What do I study and how?

本専攻は、①舞台芸術、②映像芸術、③マンガ・アニメーション、④身体表象文化論、⑤身体表象文化史という5つの分野を柱としています。このうち本専攻の基礎的な理論的枠組みを提供するのは④身体表象文化論と⑤身体表象文化史です。本専攻に所属する学生はこの5つの分野から具体的な研究対象を選択して研究をおこない、修士論文および博士論文を執筆することになります。

①舞台芸術、②映像芸術、③マンガ・アニメーションの分野では「演習」と「批評研究」の2種類の科目を設置しており、演習科目では専門分野における基本的知識の確実な習得、批評研究科目では応用能力の開発と批評技法の習得を目指しています。この5分野以外にも、身体表象の制度的な枠組みを研究する「表象文化制度論演習」を設置しており、現場からの視点など、身体表象文化へのより広い、より具体的な視野を獲得することができます。



ティエリ・マレ Theater Arts 教授

### 舞台芸術



夏目房之介 Manga & Animation 教授

### 具体的研究対象



中条省平 Film Arts 教授

### 映像芸術

Film Arts



大貫敦子 Corporeal & Visual Representation (Gender Studies) 教授

### 身体表象文化論

(ジェンダー研究)

Corporeal & Visual Representation (Gender Studies)



中野春夫 History of Corporeal & Visual Representation 教授

### 身体表象文化史

History of Corporeal & Visual Representation

# 身体表象文化学専攻

Faculty 専攻の教員

# 開講科目

## 専攻科目（大学院科目）

- ▷ 舞台芸術批評研究
- ▷ 映像芸術批評研究
- ▷ マンガ・アニメーション芸術批評研究
- ▷ 舞台芸術文化論演習
- ▷ 映像芸術文化論演習
- ▷ マンガ・アニメーション芸術文化論演習
- ▷ 身体表象文化論演習
- ▷ 身体表象文化史演習
- ▷ 表象文化制度論演習
- ▷ 修士論文指導
- ▷ 博士論文指導

# 学部開講科目

- 文学部共通科目
  - ▷ 現代マンガ学講義
- 基礎教養科目
  - ▷ 舞台・映像芸術A
  - ▷ 舞台・映像芸術C



三輪健太郎  
2019年3月博士後期課程修了  
大学専任教員

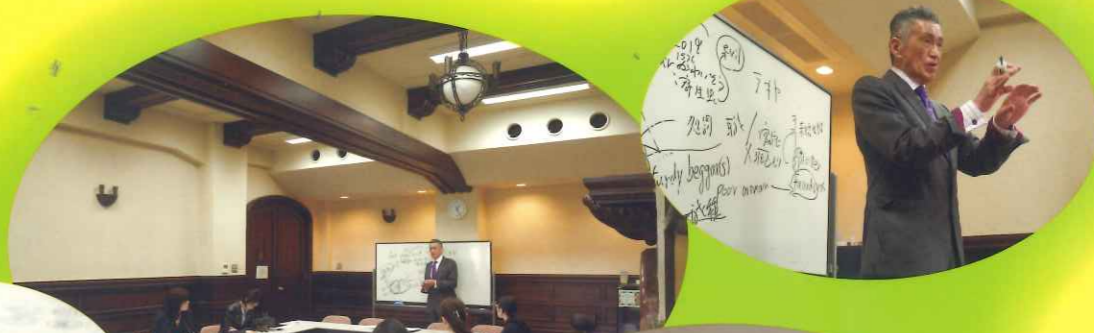
大学院の進学先を考えるにあたっては、学力面や経済面など様々な要因が関わってきますが、最終的にもっとも重視すべきは、自分が研究をしていく上でのモチベーションです。私は、夏目房之介先生のもとでマンガ研究をやってみたく、という半ば直感的なインスピレーションに導かれて学習院の門をくぐって以来、夏目ゼミで研鑽を積みながら、本を出したり博士論文を書き上げたりと研究に進進してきました。十年後の今日では、今度は私が大学教員として学生にマンガの研究を指導する日々を送っていますが、いま振り返ってみて、これまで研究者人生を続けてこられた最大の要因は、大学院時代の環境に恵まれたからだと言えます。映画や舞台を専門とするメンバーとも交流しつつ、夏目ゼミで過ごした時間は、自分は今まさにマンガ研究の最先端で切磋琢磨しているんだという高揚感とともに、自らの研究へのモチベーションを育み、持続させてくれるものでした。学問の道のは決して楽なものではありませんが、ぜひ高い志をもってその入り口に立ってください。



岡田尚文  
2015年3月博士後期課程修了  
大学非常勤講師

身体表象文化学専攻では、2019年度より学部生向けの基礎教養科目「舞台・映像芸術C」を開講しています。多数の専門研究者（演劇研究、表象文化論等）／現場経験者（舞台演出家・出演者、ジャーナリスト等）を学内外から招き、「メディアミックス時代の文化と芸術」を統一テーマとして各氏に講義してもらうオムニバス形式の授業です。具体的には、漫画やゲームの舞台化である「2.5次元ミュージカル」（『刀剣乱舞』等）やアニメーション（『ガールズ&パンツァー』等）のロケ地を訪ねる「〈聖地〉巡礼」といった最新のメディア・トピックについて縦横にお話し頂いており、学生からも好評を博しています。光栄にも私はこの授業にオーガナイザー兼講師として携わらせてもらっていますが、もとは本専攻の出身です。中条省平教授の指導下に映画に関する博士論文を執筆し、本専攻の助教を務めた後、今に至ります。本専攻ではマンガ・アニメーション、映画、演劇、ジェンダー研究という4つの学問領域の演習を自分の研究テーマに沿って自由に行き来することができるのですが、そこで得た経験が、学際的な智見を要求される現在の仕事に非常に役立っています。

## 先輩からのメッセージ



吉村麗  
2017年3月博士前期課程修了  
チューター

学部時代は美術史を勉強していましたが、マンガを専門的に研究してみたいという気持ちから、身体表象文化学専攻に入学しました。当初、研究の基礎さえできていなかった私にとって論文を仕上げるということは無謀な挑戦にも思えました。けれど、夏目房之介教授の丁寧な指導や頼りになる先輩方、切磋琢磨できる同輩たちのおかげで、刺激的で充実した学生生活を送ることができました。卒業後は主に美術館において、マンガ展の企画・制作に携わっています。2018年はパリ、今年はロンドンと、近年は海外で日本のマンガを紹介する展覧会に参加する機会に恵まれました。改めてマンガというメディアが持つ力を再確認し、より国際的な展開の可能性を感じています。



留学生と中野春夫教授

## 先輩からのメッセージ

留学生が割と少ないですが、とても自由な雰囲気、研究に何か困ったことがあってもみんながサポートしてくれますし、論文に心配だったら気軽に周りにアドバイスを求めることができる環境です。ここではマンガ、アニメ、映画、演劇、ジェンダーの授業に自由に参加でき、学生も研究分野と国籍を問わず日々積極的に交流しています。多角的に問題を考えたい、自分の研究を進めつつ別分野からも刺激を受けたいという方には最適だと思います。

（博士前期課程2年 李思攀）

## 研究支援

学習院大学大学院人文科学研究科は大学院生の研究活動を経済的にも支援しています。

- 1 | 特別研究費 申請者全員に、博士後期課程20万円／博士前期課程5万円を支給
- 2 | 返還不要の奨学金 【博士後期課程給付奨学金】年間授業料の3分の1相当額  
【安倍能成記念教育基金奨学金】45万円（例年、研究科から7名程度）  
【学習院大学学業優秀者給付奨学金】30万円（毎年専攻から、博士前期課程の院生1~2名）  
【教育ローン金利助成奨学金】申請により金利の一部（上限5万円）
- 3 | TA・RA制度 多くの学生がTA（ティーチング・アシスタント）・RA（リサーチ・アシスタント）としてアカデミック・キャリアを積んでいます。TA・RAには、報酬が支給されます。
- 4 | 学会発表への補助 国内：交通費と宿泊費を補助  
海外：交通費・宿泊費の一部を補助（渡航地域により金額は異なります）
- 5 | 博士論文刊行助成 博士論文刊行の費用を50万円まで助成

## 研究テーマ（論文タイトル）

### 博士論文

- ▷ 空間創造と位相の身体——オスカー・シュレンマーの舞台芸術理論
- ▷ マンガ版『風谷の谷のナウシカ』における生成論的研究——コミックス成立時における改稿から見た作品分析
- ▷ 日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象
- ▷ 映画における屠畜・食肉の表象——フランスとアメリカの作品の検討を中心に
- ▷ 19世紀西洋演劇におけるジャポニズム——「日本」の表象の変遷
- ▷ 近代視覚文化としてのマンガ——その文化史的な位置づけと美学的意義について

### 修士論文

- ▷ 鹿鳴館研究——舞踏練習団体「舞楽会」の実態
- ▷ 喜歌劇『ミカド』の誕生——19世紀末舞台作品のジャポニズムの源泉をたどる
- ▷ ジェイクスピア喜劇における異性装——『ヴェローナの二紳士』と『十二夜』を中心に
- ▷ 表象されるジャンヌ・ダルク——〈性〉の表象についての考察
- ▷ ベルナル＝マリ・コルテス研究——『プロローグ』をめぐって
- ▷ アントナン・アルトールの方法意識
- ▷ バレエ研究——『白鳥の湖』の演出の多様性
- ▷ ポール・クロデル研究——その劇作における日本の伝統演劇の受容と展開
- ▷ ジンガロにおける馬の演劇——パフォーマンスとしての「テアトル・エクストル」を考察する
- ▷ エミール・ゾラの演劇理論——演劇における近代性のアプローチ
- ▷ 「瓢箪鯉」をめぐって——絵画・歌舞伎舞踊・日本舞踊
- ▷ 大島渚の戦後日本映画論——松竹時代から創造社時代にかけての映画運動の観点から
- ▷ ジャン・ルーシュ論——民族誌映画の変遷
- ▷ 日本における「声優」の歴史と役割の検討——映画史の視点から
- ▷ ホラー映画論——その「映画体験」の実態
- ▷ 溝口健二作品研究
- ▷ アルフレッド・ヒッチコック研究
- ▷ デイヴィッド・リンチ研究
- ▷ ヌーヴェル・ヴァーグ再考——俳優の問題をめぐって
- ▷ オーソン・ウェルズ研究——映画と近代の経験
- ▷ 劇画的絵柄の誕生——貸本漫画における絵柄の転換期
- ▷ 漫画における時制表現
- ▷ 格闘技漫画における運動の表現
- ▷ 異文化コミュニケーションとしての中日の「二次創作」——「擬人化」モードの共有と浸透
- ▷ 「少年向け」マンガ・アニメ作品における女性受容層の成立過程——1970年代長浜忠夫監督作品の女性による「越境的受容」行動を中心に
- ▷ 杉浦茂論——作家像の形成について
- ▷ 少女マンガにおける「花」の表現
- ▷ マンガと映画の比較メディア論——コマと時間の理論をめぐって
- ▷ 現代日本における女性の髪の変容——『髪の変容』に注目して
- ▷ 現代日本社会における覇権的男性性の変容——男性誌における表象分析から
- ▷ 「人形的」な黒髪の変容——「J-ホラー」に着目して
- ▷ 「わいせつ」と芸術
- ▷ 宝塚歌劇団の男役におけるジェンダー表象
- ▷ 松尾スズキにおける「ズレ」の言語と身体
- ▷ 眼差されるフリックス——攪乱される「正常」と「異常」
- ▷ コミュニケーション・メディアとしてのヴァーチャル・キャラクター
- ▷ 「他者」を演じる——〈コスプレ〉の可能性
- ▷ Queer Familyと親密圏の変容
- ▷ ……
- ▷ (その他多数)

## 講演会など

これまでに開催された講演会や研究会のいくつかをご紹介します。

- ▷ レクチャー・コンサート「ヨハン・セバスティアン・バッハの作品における時間性と非時間性」  
ガブリエル・リジャール（バリ管弦楽団ヴァイオリン奏者）
- ▷ 講演会「ジャック・リヴェットの映画における身体の演劇性」  
アンヌ＝ガエール・サリオ（デューク大学ロマンス諸言語研究学科准教授）
- ▷ 講演会「表現とセクシュアリティーズ」  
対談：田亀源五郎（漫画家）／溝口彰子（学習院大学非常勤講師）／司会：エスムラルダ（ドラッグクイーン）
- ▷ 講演会「上演へのアプローチ：言葉が冒険と劇になるとき」  
クロード・ビュシュヴァルド（パリ第8大学演劇学科准教授・俳優・演出家）
- ▷ 講演会「BD、コミックス、マンガの出会い時～『タンタンの冒険』から、タイ・オルタナティブ・コミックス誕生まで～」  
ニコラ・ヴァッスタブ（タイ国立チュラーロンコーン大学講師。ベルギー出身のBD、コミックス、マンガ研究者）
- ▷ 講演会「「やっぱり一女（イチジョ：一年生女子）はかわいいね」～カテゴライズされるまえのあなたとわたしで向き合うために～」  
牧村朝子（タレント・文筆家）
- ▷ マンガ研究フォーラム「明治ボンチ本を読む：日本の〈マンガ単行本〉の源流に触れる」
- ▷ 演劇公演会「学習院リーディングセッション『RUR』」

## ゼミ合宿 先輩からのメッセージ



田原康夫  
博士後期課程

身体表象文化学専攻では、長期休暇期間にも学生有志が主体となり定期的な勉強会を開催しています。とくに2018年度は、一泊二日の合宿旅行もおこなわれました。今回のテーマは映画「エイリアン」シリーズ。二日間にわたって映画の鑑賞・発表をおこない、学生／教員のわくにとられない熱心な議論が交わされました。ジェンダー、人種、身体、宗教、はたまたクトゥルフ神話といったさまざまな論点が浮上するのも、多様な興味・関心が並立・交差する身体表象文化学という学際的な領域構成があってこそ。専門のことなる学生／教員が集う本専攻の特色は、みながともに切磋琢磨しあい、日々、学識を深めることに活きています。



関根麻里恵  
博士前期課程

## 学内学会 先輩からのメッセージ

学習院大学身体表象文化学会とは、2017年4月に設立した本専攻の在学生、卒業生、新旧教職員を構成の母体とした学内学会です。本学会は、身体をめぐる表象文化研究の発展に寄与すべく、会員に研究成果の発表の場を提供すること、そして、会員内の親睦を図ることをおもな目的として掲げ、①大会・例会の開催、②学会誌『身体表象』の発行（デジタル刊行）の2つを中心とした活動を積極的に行っています。研究発表や論文執筆の訓練の場を活用しながら、一緒に切磋琢磨していきましょう。



## 修了生の進路と就職先

### 教育機関▷

学習院大学  
麻布大学  
跡見学園女子大学  
慶應義塾大学  
啓明大学校  
自治医科大学  
城西国際大学  
浙江樹人大学  
玉川大学  
中央大学  
東京大学  
東京工芸大学  
フェリス女学院大学  
明治大学  
立教大学  
早稲田大学  
日本外国語専門学校  
日本健康医療専門学校  
上海日本人学校高等部

### その他▷

アンスティチュ・フランセ東京  
川崎市市民ミュージアム  
国立新美術館  
松竹株式会社  
新国立劇場運営財団  
東急ステイサービス株式会社  
フランス大使館  
ミネルヴァ書房  
株式会社和光  
漫画家  
翻訳業



身体表象文化学専攻マスコットキャラクター  
レップ

## 入試情報

### 募集人員

●博士前期課程：約10名／●博士後期課程：約3名

### 入試説明会

例年8月と10月の2回開催

### 入学試験

●秋期入学試験：9月（博士前期課程のみ）／●春期入学試験：2月

### 試験科目

#### ●博士前期課程

外国語（英・独・仏から選択）、選択した領域に関する論文、口述試験

#### ●博士後期課程

外国語（英・独・仏から選択）、選択した領域に関する論文、口述試験

\* 選択する領域は、i 舞台芸術、ii 映像芸術、iii マンガ・アニメーション芸術、  
iv 身体表象文化論（ジェンダー研究）のいずれか1つとします。

\* 入試情報および資料請求については、

学習院大学ホームページの「入試情報」をご覧ください。

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>

## 専攻に関するお問い合わせ

学習院大学大学院

人文科学研究科 身体表象文化学専攻

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1404 / FAX: 03-5992-1247

E-mail: [cscvroff@gakushuin.ac.jp](mailto:cscvroff@gakushuin.ac.jp)

URL: <https://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/cult/>

写真：江森康之 / デザイン：宮村ヤスヲ

## 身体表象文化史演習

中野春夫 | 本学専任教員  
学習院大学教授



ルネサンス期の視覚的表象文化を見世物、歌謡、魔術、魔女狩り、王権理念、ファッション、結婚制度など、多様な視点からの考察を行う。／授業概要：娯楽作品を対象として、視覚文化における身体表象が歴史的に（あるいは地域的に）どう変化してきたのかを探っていきます。

## 映像芸術文化論演習

中条省平 | 本学専任教員  
学習院大学教授・映画評論家



パリ大学文学博士。『フランス映画史の誘惑』から『クリント・イーストウッド』まで幅広い著作活動で映画の面白さを解きあかす。／授業概要：さまざまな映画作品や監督を取りあげ、そこで映画の技法がどのようにリアルな表現としての力を発揮しているかを示していきます。

## 身体表象文化論演習

大貫敦子 | 本学専任教員  
学習院大学教授



身体表象の形成とその文化的・社会的作用のメカニズムを、特にジェンダー差異に着目して研究。／授業概要：ジェンダー研究の基礎となる理論への導入を行うとともに、具体的な身体表象の事例について、それらの理論にもとづいて分析を行います。

撮影：松本和幸

## 舞台芸術文化論演習

横山義志 | 非常勤講師

SPAC・静岡県舞台芸術センター文芸部／東京芸術祭国際事業ディレクター



国際舞台芸術祭のために世界各地を訪れて演劇状況を調査する傍ら、古代ギリシアから今日に至るまでの西洋演技理論史に関する研究を発表。／授業概要：テレビドラマや映画で見られるような「リアリズム的演技」の起源を、「ヒト」が生まれてから現在までの人類の軌跡のなかで、参加者と一緒を考えていきます。

撮影：市川勝弘

## 映像芸術批評研究

溝口彰子 | 非常勤講師

ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ 映像芸術領域



著作：『BL進化論 ボーイズラブが社会を動かす』（2015）、『BL進化論〔対話篇〕ボーイズラブが生まれる場所』（2017）／授業概要：理論と受容実践の両輪を軸に、クィア理論、フェミニスト映画理論、ジェンダー論などの論文の購読と、映画、漫画、アート作品を考察します。

## 表象文化制度論演習

松井憲太郎 | 非常勤講師  
富士見市民会館キラリ☆ふじみ館長



演劇制作の専門家、世田谷パブリックシアターをはじめ多くの舞台の企画制作を手がけてきた。公共芸術のあり方、アジア演劇等にも幅広い眼をもつ。／授業概要：演劇のドラマツルギーの基本を学び、映像を素材にドラマの分析手法を紹介。それを基に、受講生とともに近現代のドラマを講読していきます。

## 舞台芸術文化論演習

ティエリ・マレ | 本学専任教員  
学習院大学教授



専門はフランス演劇、演劇史、演技・演出の理論。根本的に声の表象をめぐる、演劇における言語的要素と非言語的要素の研究。／授業概要：古代ギリシア以来の、西洋演劇における音楽と演技の変遷。今年は「歌劇」を問題にして「オペラ」を探る。

## マンガ・アニメーション 芸術批評研究

夏目房之介 | 本学専任教員  
学習院大学教授・マンガ批評家



マンガ家、ライターからマンガ批評家に転じ、マンガ表現論を展開。手塚治虫文化賞特別賞受賞。／授業概要：作品、文献の購読など、学生の研究発表を重視。相互の議論を通じ、広い視野を共有できる指導を目指します。

## マンガ・アニメーション芸術文化論演習

授業概要：批評研究ゼミの課題に加え、できるだけ講師を呼び、具体的に取材を行い、より密な討議と発表を求める授業です。

## 舞台芸術批評研究

横山太郎 | 非常勤講師  
立教大学教授



専門は演劇学（特に能楽）、身体文化研究、芸術思想。哲学・現代演劇・文学理論・人類学などと能との接点を探る学際的研究を行う。／授業概要：伝統演劇から現代劇に至る日本演劇の重要作品を読み、〈日本語と身体〉〈物語におけるセリフとナレーションの関係〉等の問題について考察します。

## 映像芸術批評研究

飯岡詩朗 | 非常勤講師  
信州大学准教授 映像芸術領域



第二次世界大戦終結後から1950年代にかけてのハリウッドの転換期における映画と隣接する複数のメディアの交渉や収束を研究。また、NPOによる自主上映活動に携わりながら、地方における映画上映・受容史の調査を行う。／授業概要：写真や初期映画からネットにおける動画配信やVRまで、映画を中心に映像文化にかかわる諸問題を、理論的、歴史的に分析・考察していく。

## マンガ・アニメーション 芸術文化論演習

佐々木果 | 非常勤講師  
(ササキバラ・ゴウ) アニメ・マンガ史研究者



編集者・評論家として広く活動しながら、主に19世紀以降のアニメ・マンガなどのメディア史について専門的に研究する。／授業概要：アニメーションを対象として、広く近代のメディア史や文化史の視野の中で、批評や研究の在り方を検討していきます。

## 表象文化制度論演習

柴田隆子 | 本学専任教員  
学習院大学助教



博士（表象文化学）。専門は20世紀初頭のドイツ語圏の舞台芸術理論。舞台芸術における演劇と舞踊の境界領域の研究、批評活動を行う。／授業概要：イメージの言説化に社会や芸術の制度がいかに関わっているかに留意しながら、上演分析の方法論を学ぶ。

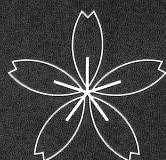
専攻に関するお問い合わせ

学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻（北2号館6階）

TEL: 03-5992-1404 FAX: 03-5992-1247 / 開室時間 平日10:00-11:30・12:30-18:00 土曜9:00-12:30

Email: cscvroff@gakushuin.ac.jp URL: https://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/cult/





学習院大学大学院

人文科学研究科

# 身体表象

文化学専攻

入試情報 2020年度

博士  
前期  
課程

秋期入学試験 | 募集人員：約5名

筆記試験：2019年9月14日(土) / 口述試験：2019年9月15日(日)

出願期間：2019年8月19日(月)～8月21日(水)

春期入学試験 | 募集人員：約5名

筆記試験：2020年2月17日(月) / 口述試験：2020年2月18日(火)

出願期間：2020年1月8日(水)～1月11日(土) 12時まで

博士  
後期  
課程

入学試験 | 募集人員：約3名

筆記試験：2020年2月17日(月) / 口述試験：2020年2月18日(火)

出願期間：2020年1月8日(水)～1月11日(土) 12時まで

人文科学研究科  
大学院説明会

第1回 2019年8月2日(金) 午後3時～

第2回 2019年10月26日(土) 午後3時～

当日は専任教員・院生が当専攻の概要を説明すると共に、参加された皆さんからの質問・相談を受付けます。  
なお、出願資格や試験科目等、入学試験に関する詳細情報は下記アドミッションセンターHPでご覧いただけます。  
|科目又は数科目の履修が許可される科目等履修生の制度もあります。

入試に関するお問い合わせ 人文科学研究科学生募集要項の請求、および入学試験に関するお問い合わせは、下記にて受付けております。

学習院大学アドミッションセンター (西5号館4階)

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 TEL: 03-5992-1083 / 03-5992-9226

受付時間 平日9:00-16:30 土曜9:00-12:00

URL: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>

